株式会社セック

Systems **E**ngineering **C**onsultants Co.,LTD.

https://www.sec.co.jp/

銘柄コード：３７４１

2019年3月期 決算

説明資料

2019年5月30日

Copyright © 2019 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

＜目次＞

- 事業分野
- 決算概要（２０１９年３月期）
- 今期業績見通し（２０２０年３月期）
- 注力分野の状況 （ＩｏＴ・ＡＩ・ロボット）

Copyright © 2019 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

事業分野（ＢＦ）

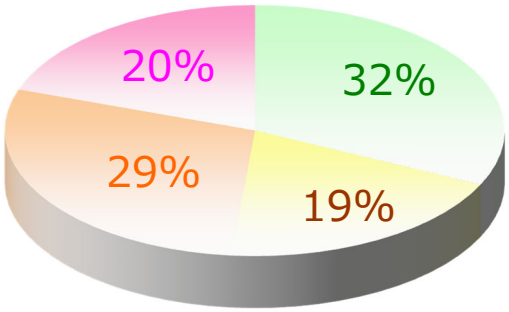
リアルタイム技術が得意とする４つの分野

宇宙先端システムＢＦ

宇宙天文分野と、ロボットなど先端分野のソフトウェアを開発

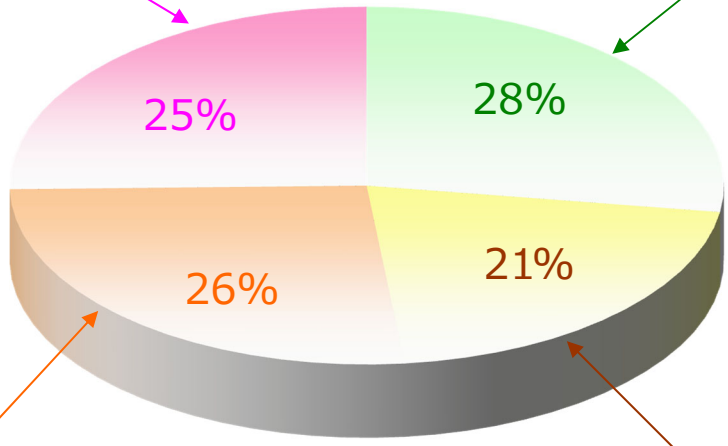
モバイルネットワークＢＦ

モバイルサービスを利用するためのアプリケーションや、モバイル機器の組込みソフトウェアを開発



２０１８年３月期

需要構造の変化に応じて柔軟に対応



２０１９年３月期

社会基盤システムＢＦ

医療、防衛、官公庁向けなど社会公共性の高い分野のシステムを開発

インターネットＢＦ

非接触ＩＣ搭載のソフトウェアや民間企業向けのシステムを開発

Copyright © 2019 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

決算概要
（２０１９年３月期）

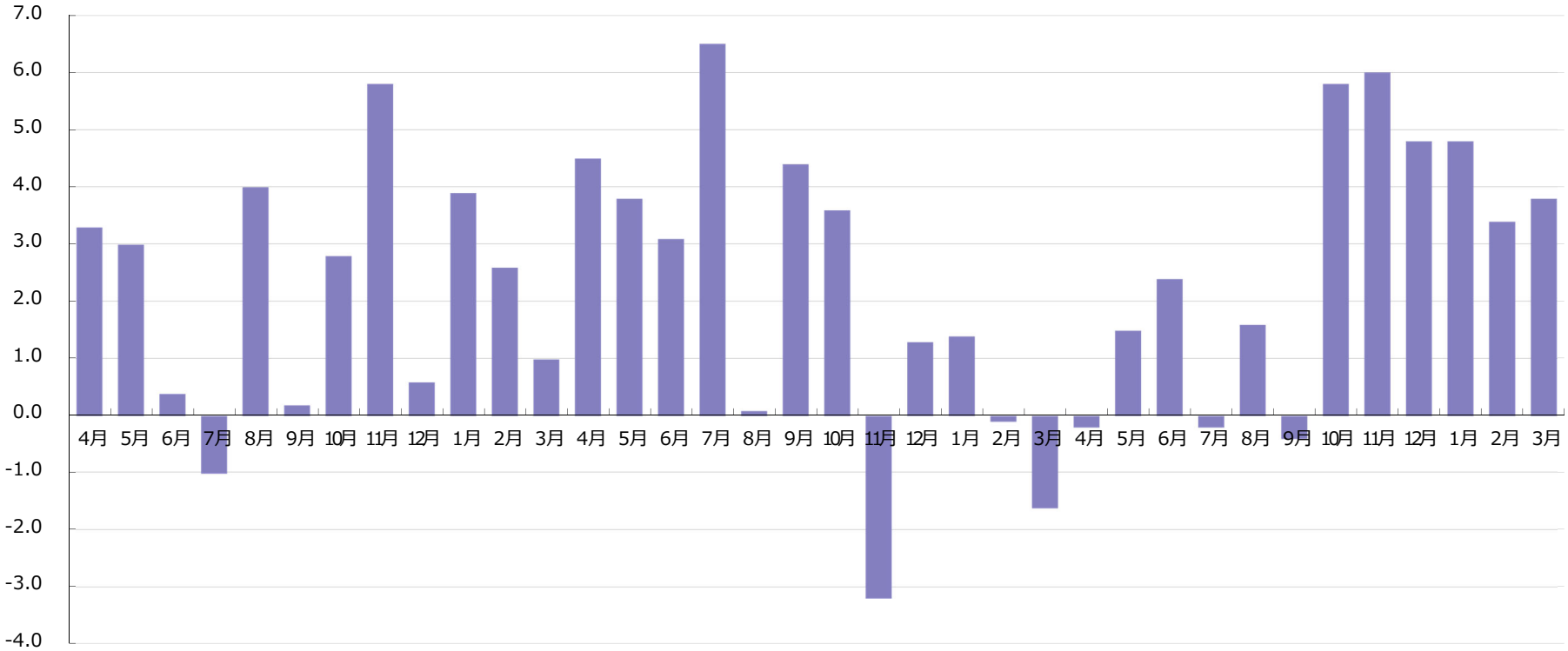
Copyright © 2019 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

事業環境

2019年3月期の事業環境

単位：%

情報サービス業売上高前年同月比推移（経済産業省：特定サービス産業動態統計）



2018年4月から2019年3月までの月別売上高は、4月より増加と減少を繰り返した後、10月からは継続して増加しており、「IT需要は全体的には概ね堅調」と推察される。

Copyright © 2019 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

2019年3月期総括

売上高は過去最高、利益面は上場来最高（当期純利益は過去最高）、前年同期比で増収増益

売上高	：	５，９８１百万円	前期比	１５．６%増	
営業利益	：	８２３百万円	前期比	３２．７%増	利益率　１３．８%
経常利益	：	８８９百万円	前期比	２９．７%増	利益率　１４．９%
当期純利益	：	６１３百万円	前期比	３１．０%増	

受注高、受注残高ともに過去最高

受注高	：	６，４１２百万円	前期比	２０．０%増
受注残高	：	２，０４０百万円	前期比	２６．８%増

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

- 非接触ＩＣ搭載ソフトウェアを含めたモバイル決済関連の開発案件が増加
- 車両自動走行やサービスロボットの研究開発案件が増加
- 官公庁案件や防衛分野の開発が堅調
- 移動体通信事業者向けのサービス系の開発は下期以降減少

Copyright © 2019 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

損益計算書

	２０１８年3月期 （百万円）	２０１９年3月期 （百万円）	前期比 （%）	修正予想 (1月) （百万円）	計画達成率 （%）
売上高	５，１７５	５，９８１	１１５．６%	５，７５０	１０４．０%
売上原価	３，７４３	４，３１０	１１５．２%	４，１９０	１０２．９%
売上総利益	１，４３２	１，６７０	１１６．７%	１，５６０	１０７．１%
販売管理費	８１１	８４７	１０４．４%	８３０	１０２．１%
営業利益 （営業利益率）	６２０ （１２．０%）	８２３ （１３．８%）	１３２．７%	７３０ （１２．７%）	１１２．８%
経常利益 （経常利益率）	６８５ （１３．３%）	８８９ （１４．９%）	１２９．７%	８００ （１３．９%）	１１１．２%
当期純利益	４６８	６１３	１３１．０%	５５０	１１１．６%

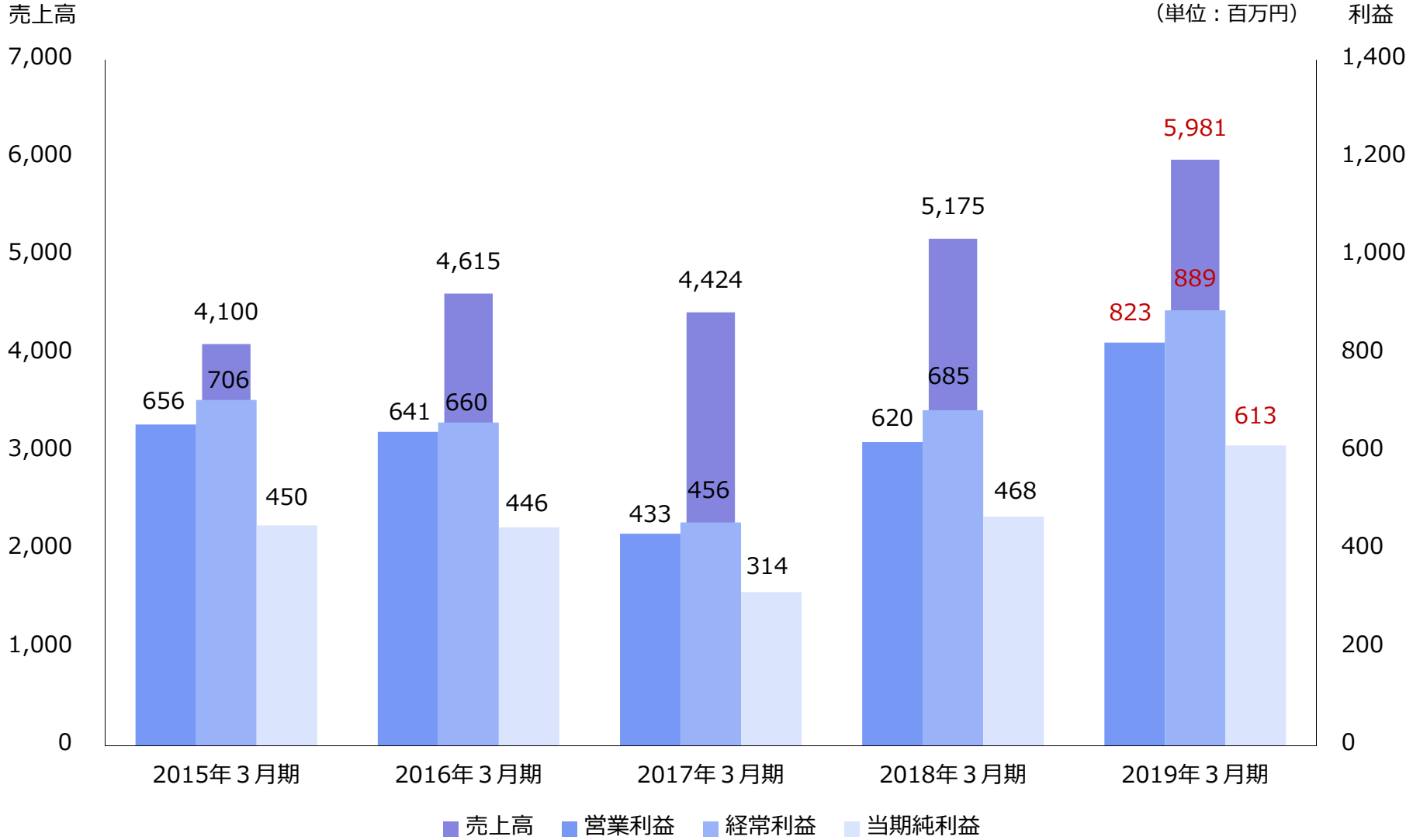
売上原価　外注費が大幅に増加　(19億円、前年同期比34.1%増、売上高外注比率32.5%、前期28.0%)

販売管理費　新入社員の増加などにより労務費が増加

営業外損益　研究開発の補助金収入は21百万円（前年同期は33百万円）、受取出向料が大幅に増加

Copyright © 2019 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

決算業績推移（過去５年）



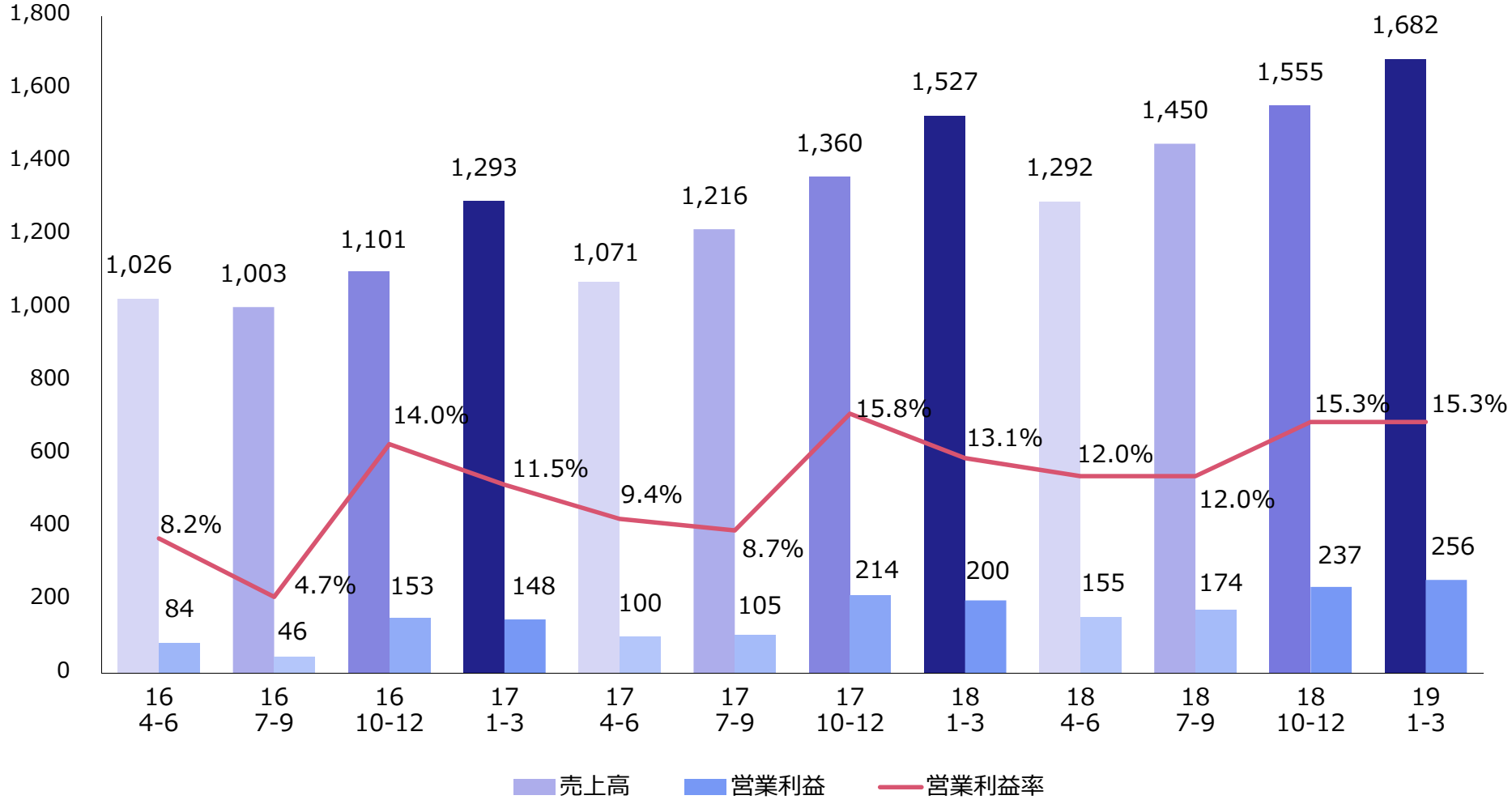
※ 法定実効税率（2015年3月期35.64%→2018年３月期30.86%に段階的に減少）

Copyright © 2019 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

四半期業績推移（ＰＬ）

前期の第１四半期より８四半期連続で増収増益

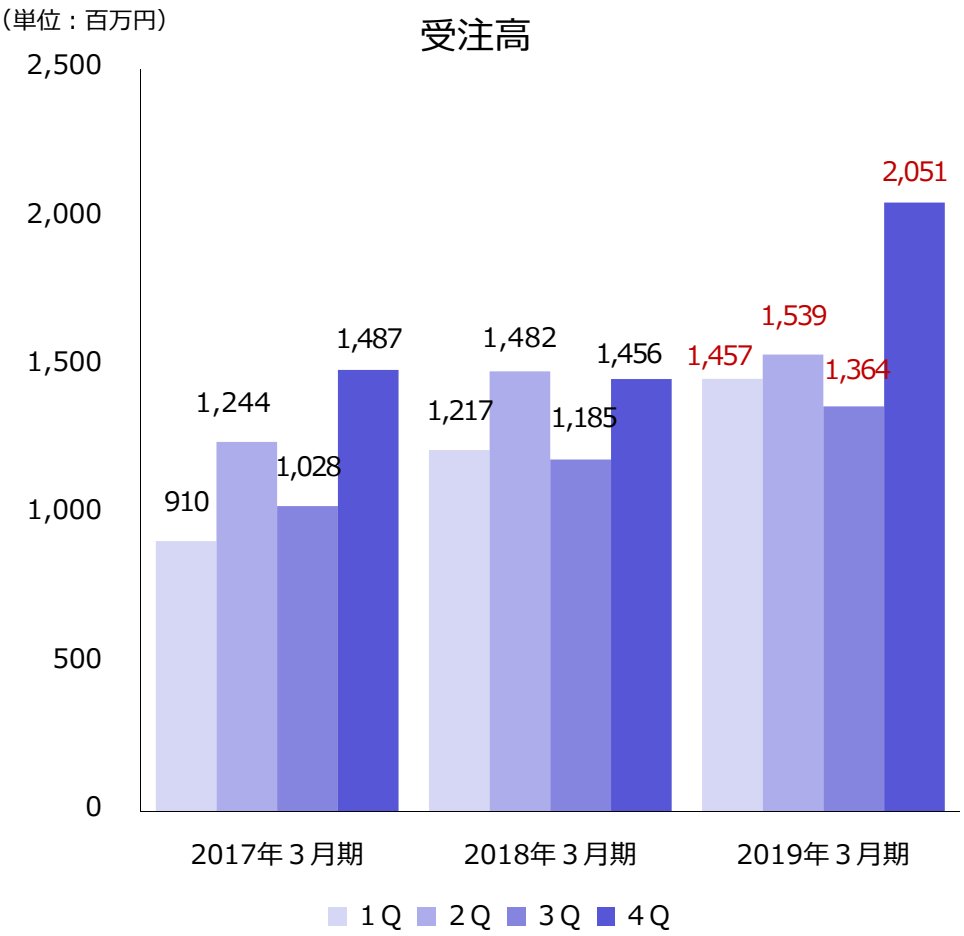
（単位：百万円）

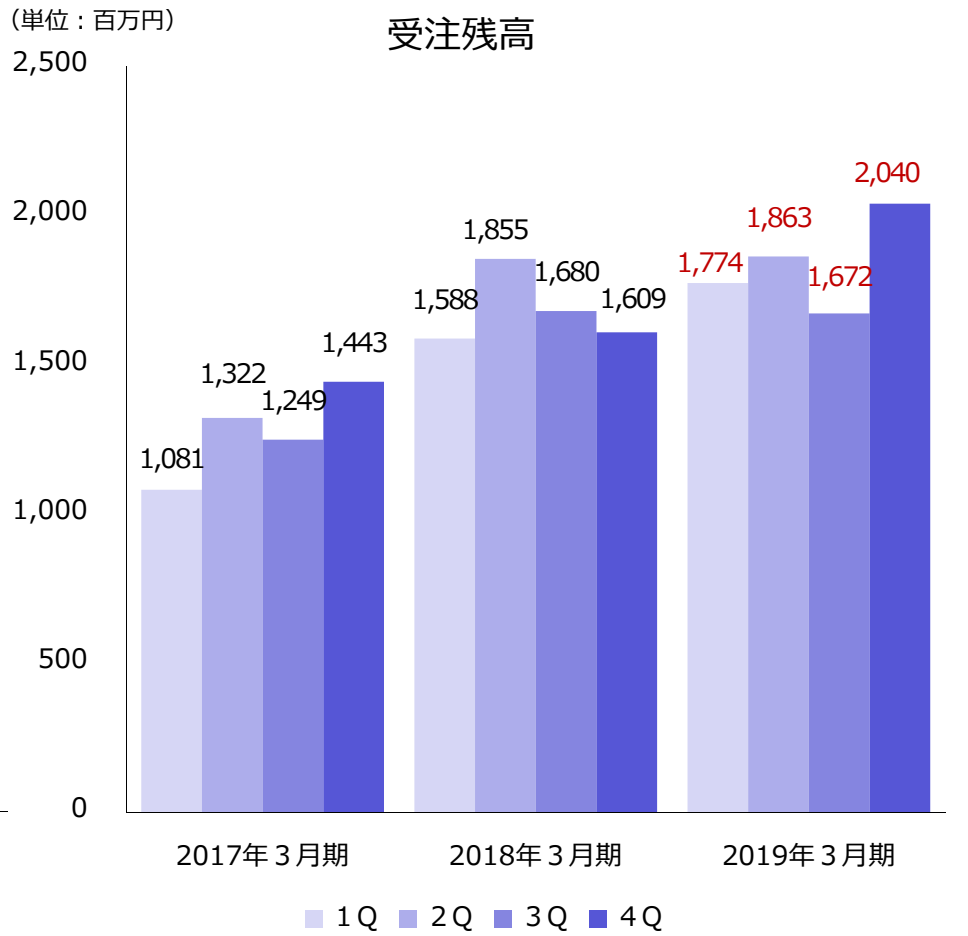


Copyright © 2019 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

四半期業績推移（受注状況）

受注高、受注残高ともに過去最高





Copyright © 2019 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

ＢＦ別の状況

宇宙先端システムが前期比1.5倍と大幅に増加

ビジネスフィールド	２０１８年３月期		２０１９年３月期		
	売上高（百万円）	構成比（%）	売上高（百万円）	構成比（%）	前期比（%）
モバイルネットワーク	１，６６０	３２．１	１，６３６	２７．４	９８．６
インターネット	１，００６	１９．４	１，２５２	２０．９	１２４．４
社会基盤システム	１，４８９	２８．８	１，５７７	２６．４	１０５．９
宇宙先端システム	１，０１８	１９．７	１，５１４	２５．３	１４８．６
合計	５，１７５	１００．０	５，９８１	１００．０	１１５．６

- モバイルネットワークBFは、モバイル決済関連の開発が増加、移動体通信事業者向けのサービス系が減少へ
- インターネットBFは、非接触ＩＣ搭載ソフトウェアの開発が増加
- 社会基盤システムBFは、官公庁案件や防衛分野の開発が堅調
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行やサービスロボットの研究開発案件が増加

Copyright © 2019 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

ＢＦ別受注状況

社会基盤システム、宇宙先端システム、インターネットが増加

ビジネスフィールド	２０１８年３月期		２０１９年３月期			
	受注高（百万円）	受注残高（百万円）	受注高（百万円）	前期比（%）	受注残高（百万円）	前期比（%）
モバイルネットワーク	１，６８６	３７３	１，５８７	９４．１	３２４	８６．８
インターネット	１，０６５	２３３	１，２９２	１２１．３	２７３	１１７．３
社会基盤システム	１，４５６	６８４	１，９８３	１３６．１	１，０８９	１５９．２
宇宙先端システム	１，１３４	３１８	１，５４９	１３６．６	３５３	１１０．９
合計	５，３４２	１，６０９	６，４１２	１２０．０	２，０４０	１２６．８

（受注残高のうち、今期の売上高に貢献するのは１，６７１百万円、前期（1,493百万円）と比較し１１．9%の増加）

- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのサービス系の開発が減少し、受注高、受注残高ともに減少
- インターネットBFは、非接触IC搭載ソフトウェアの開発案件の増加により、受注高、受注残高ともに大幅に増加
- 社会基盤システムBFは、複数年契約の官公庁案件が増加し、受注高、受注残高ともに大幅に増加
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行やロボットの研究開発案件が増加し、受注高、受注残高ともに大幅に増加

Copyright © 2019 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

期末貸借対照表

（単位:百万円）

	２０１８年３月末日	２０１９年３月末日	増減
流動資産	４，９８８	５，３０４	３１６
固定資産	１，５９５	１，７３７	１４１
流動負債	１，０７０	１，１２６	５５
固定負債	１０９	１２１	１２
純資産	５，４０３	５，７９３	３９０
総資産	６，５８３	７，０４１	４５７
自己資本比率	８２．１%	８２．３%	０．２%
流動比率	４６６．１%	４７１．１%	５．０%
固定比率	２９．５%	３０．０%	０．５%

※「税効果会計に係る会計基準」の一部改正等を当事業年度の期首から適用しており、前事業年度に係る経営指標等については当該会計基準等を遡って適用。

流動資産　受取手形及び売掛金、現金及び預金の増加による増加

固定資産　投資有価証券、前払年金費用の増加による増加

流動負債　買掛金、未払消費税等、未払法人税等の増加による増加

Copyright © 2019 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

キャッシュ･フロー計算書

（単位:百万円）

	２０１８年３月期	２０１９年３月期	増減
営業活動によるキャッシュ･フロー	２３０	３９７	１６７
投資活動によるキャッシュ･フロー	▲２６	▲１３２	▲１０６
財務活動によるキャッシュ･フロー	▲１８４	▲２３５	▲５０
現金及び同等物の増減額	１９	２９	１０
現金及び同等物期末残高	２，６６８	２，６９８	２９

営業キャッシュ･フロー　税引前当期純利益の増加、売上回収額の増加による収入増

投資キャッシュ･フロー　投資有価証券の取得による支出増

財務キャッシュ･フロー　配当金支払による支出増

Copyright © 2019 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

通期業績見通し
（２０２０年３月期）

Copyright © 2019 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

2020年3月期重点テーマ（背景）

ソフトウェア重視からソフトウェア主役の時代へ

「ソフト重視」「ソフト専門家」「技術教育」の３つのキーワード

「IT人材争奪戦　→　ソフトウェア重視の時代へ」

- 人工知能（ＡＩ）など目まぐるしい技術革新に対応できる即戦力の確保が急務となっている。
- ソフト開発の内製化傾向が強まり、専門性が高い開発だけが外部に発注される。
- エンドユーザがソフトが難しくて対応できない。ソフト会社にアドバイスを求めてくる。

「ソフトウェア技術が高度化　→　ソフトウェア専門家の時代へ」

- ソフトの技術が難しくなってきた。AI人材などソフトの高度専門家の時代が到来する。
- セックにない技術は、アライアンスを組むことで対応。ここでのポイントは、アライアンス相手からみて、セックが魅力的であること。

「IT人材不足　→　プログラミング的思考の義務教育化」

- IT人材の不足に対して、国をあげての「ソフト教育」が始まる。
- 不足するのはAIやIoTなどの先端技術分野の人材で、高度な技術教育が必要となる。

Copyright © 2019 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

2020年3月期重点テーマ

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

「研究開発」「海外技術」「人材」の３つのキーワード

「研究開発」

- ●研究開発を強化する。
- ●大学・国の研究機関との最先端技術でのアライアンスを推進する。
- ●１社完結は不可能、アライアンスを前提としたビジネスモデルを推進する。

「海外技術」

- ●ロボット標準化技術の海外展開と米国のハードウェアを含めた最新技術の導入など、海外とのビジネスに挑戦する。
- ●米国現地法人AMSECと協調し、グローバルビジネスを加速する。

「人材」

- ●社員の成長を促す働き方改革（ワークライフバランス）にトライする。
- ●継続的なベースアップにより、処遇を改善する。
- ●技術教育をAIを中心に強化。ディープラーニングに関する知識習得と経験を積重ねる。

Copyright © 2019 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

2020年3月期業績見通し

成長への投資を優先、売上高・利益は微増の計画

（単位:百万円）

	２０１９年３月期	２０２０年３月期 業績予想	前期比 （%）
売上高	５，９８１	６，１００	１０２．０%
売上原価	４，３１０	４，３６０	１０１．１%
売上総利益	１，６７０	１，７４０	１０４．２%
販売管理費	８４７	８８０	１０３．９%
営業利益 （営業利益率）	８２３ （１３．８%）	８６０ （１４．１%）	１０４．４%
経常利益 （経常利益率）	８８９ （１４．９%）	９２０ （１５．１%）	１０３．４%
当期純利益	６１３	６４０	１０４．３%

売上原価　人件費が増加するものの外注費を抑制する計画で、ほぼ前期並みを見込む

販売管理費　研究開発への投資などにより増加を見込む

営業外損益　研究開発の補助金収入と受取出向料を見込む

Copyright © 2019 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

ＢＦ別業績見通し

宇宙先端システムが増加の見込み

ビジネスフィールド	期初の想定	予想
モバイルネットワーク	移動体通信事業者向けのサービス系の開発が減少傾向のため、若干の減少	→
インターネット	非接触IC搭載ソフトウェアの開発やモバイル決済端末の開発が堅調で、前期並み	→
社会基盤システム	官公庁系の開発や防衛分野の商談が引続き堅調で、前期並み	→
宇宙先端システム	車両自動走行の研究開発案件が引続き好調で、それにロボットの研究開発案件も増加傾向にあり、全体で増加	↗

Copyright © 2019 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

注力分野の状況
（ＩｏＴ・ＡＩ・ロボット）

Copyright © 2019 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

注力分野の状況　＞ IoT・AI・ロボット

研究開発テーマ「ユビキタス（Ubiquitous）」 ⇒ 基盤技術はリアルタイム技術

ユビキタス

身の回りの全てのものにコンピュータを埋め込んでネットワークに接続することで、私たちの生活を安全で安心、快適なものにするという概念

［基盤技術］
リアルタイム技術

ユビキタスを具現化した技術

IoT

- ロボットIoT向けコンピュータビジョン研究
- MR技術を用いた次世代可視化技術（JAXA）

ユビキタスのキーテクノロジー

AI（人工知能）

- 機械学習を用いた運用データの解析による宇宙機の故障解析（JAXA）
- ロボット用人工知能・機械学習プラットフォーム開発（早稲田大学）

ロボットソフトウェア共通化技術
（2003年より研究開発をスタート）

- NEDO次世代ロボット共通基盤開発プロジェクト（2005年～2007年）
  NEDO次世代ロボット知能化技術開発プロジェクト（2007年～2011年）
- NEDO基盤ロボット技術活用型オープンイノベーション促進プロジェクト（2008年～2010年）
- 経済産業省ロボット介護機器開発・導入促進事業

⇒

ユビキタスの究極の端末

ロボット

- RTM・ROS標準化技術・米国技術調査
- ロボット自律移動研究
- 知能処理の回路化(FPGA)とロボットプラットフォームへの適用（九州工業大学）
- NEDOロボット活用型市場化適用技術開発プロジェクト

Copyright © 2019 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

IoT・AIの注目技術　～5G／MR・エッジコンピューティング～

ＭＲ（ＩｏＴ）

IoTの中で、５Ｇの特徴を活用したＭＲの研究開発を推進

- ５Ｇ（超高速、超低遅延、多数同時接続）が、今後、ＩｏＴの基盤となる
  ⇒５Ｇの特徴を活かしたエッジデバイスとしてのＭＲに注目
- MR技術を用いた次世代可視化技術（JAXAと共同研究）
- ＭＲのビジネス化に向け、「Microsoft Mixed Realityパートナープログラム」のパートナー認定を取得

エッジコンピューティング（ＡＩ・ロボット）

AI・ロボットの中で、５Ｇでの端末側の技術であるＦＰＧＡの研究開発を推進

- ５Ｇ時代には、すべてのデータをクラウドの処理と連携するエッジ（端末）での処理が必要となる（エッジコンピューティング）
  ⇒エッジでＡＩなど高度な処理をするために、ＦＰＧＡ（プログラミング可能な半導体）が有力視されている
  ⇒ＦＰＧＡはＧＰＵと比較して、高負荷処理の高速化、省電力化を実現。プログラミング可能なデバイスであるため、ソフトウェアエンジニアとの親和性が高い
- 知能処理の回路化とロボットプラットフォームへの適用（九州工業大学と共同研究）

Copyright © 2019 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

ロボットビジネスの状況

実績　（2019年３月期　売上高約１,１３７百万円）
（前年同期約６８５百万円　←　前々年同期約５８４百万円）

車両自動走行が増加、それにサービスロボットの研究開発案件が追加され大幅に増加

- 大手自動車メーカからの車両自動走行研究ソフトウェアの開発案件が増加（AI連携）
- 大手自動車、電機、機械、建築メーカからの実用化に向けての研究開発案件が増加
  ⇒　技術的には、システムエンジニアリング、ROS・RTM（ミドルウェア）などの標準化技術、自律移動ソフト（Rtino）、コンピュータビジョンソフト「Rtrilo」などを使った受託開発が主流
  ⇒　分野的には、無人搬送車、船舶、ドローン、警備、業務用掃除機など広範囲
  ⇒　顧客層は拡大傾向

今後の方針　実用化に向けて、全方位でチャンスを逃さない

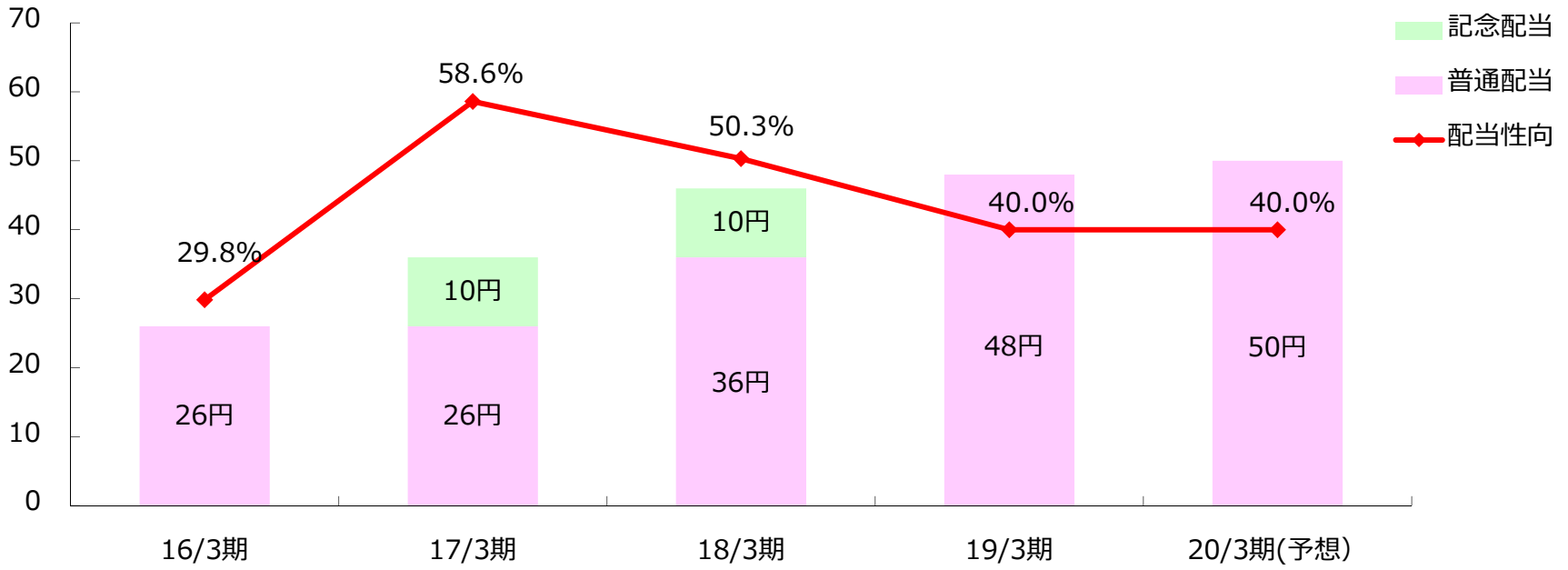
３つの強みで展開

- ロボット標準化技術（RTミドルウェア、ROS）ビジネスの推進
  ⇒ 試作機の開発、製品化・実用化（ラストワンマイル）、教育、コンサルなど
- 製品適用ビジネスの推進
  ⇒ 自律移動ソフト(Rtino)、コンピュータビジョンソフト(Rtrilo)、機能安全ソフト(RTMsafety)など製品＋α（複数台制御、開発、教育、コンサルなど）のビジネス
- ロボット高付加価値化ビジネスの推進
  ⇒ ロボット＋α（エンジニアリング、AI、MR、画像認識、RaaSなど）のビジネス

Copyright © 2019 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.

配当の方針

- 配当性向は当面４０%を目安とする。
- ２０２０年３月期は１株当たり５０円の配当予想とする。



※２０１６年１０月１日付で、１：２の割合で株式分割を実施していますが、２０１６年３月期の期首に株式分割を実施したものと仮定して配当金を表示しています。

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのＩＲ情報をご提供することにあり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。

Copyright © 2019 Systems Engineering Consultants Co.,LTD. All rights reserved.